

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790700033		
法人名	特定非営利活動法人 豊心会		
事業所名	グループホームすずらん紡 横糸の棟		
所在地	福島県須賀川市小作田字荒町台17		
自己評価作成日	平成25年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福島県介護支援専門員協会		
所在地	郡山市亀田2丁目19-14 チャレンジビル2階		
訪問調査日	平成25年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

どんな時でも入居者が中心という考えの基に日々支援しています。入居者の可能性に目を向け、入居者の持てる力を発揮して楽しめる食生活、ご家族との関係性の継続、地域との関係性の構築、心身の健康、四季を大切にした居心地の良い住まいの提供、入居者同士のつながり、これらを大切に日々入居者の方と関わっています。開所後まだ約1年の為まだまだ不十分な事もありますが、入居者の方一人ひとりが持てる力を発揮して、生き生きと、安心して生活して頂けるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から一年未満の新しい施設だが、法人ですでに幾つものグループホームを運営しており、それらの経験を生かした施設づくりが行われている。ハード面では、あえて玄関に段差を設けることで屋内外の区別を認識しやすくしたり、敷地内に市の指定避難場所となるデイサービスを建設中で、より地域との関わりが持ちやすい環境づくりを進めている。またソフト面でも、法人内で経験のある職員を中心に置き、新たな職員への指導が行われている。職員間の雰囲気も良く、各職員が目標を持って業務に取り組んでいる。全体の雰囲気も落ち着いているため、利用者も落ち着いており、それぞれの好みの場所で自由に過ごせている様子が伺えた。現在は自立度の高い利用者が多いため、各利用者の持っている力を生かした支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の住民となるという意識を忘れず、近所の方に会った時には挨拶をするなど心掛けています。理念の実現に向けて頑張っているが少しずつです。	職員会議やユニット会議等で理念について職員と話し合う機会を持つようにしている。利用者の活動性を引き出すために、開設時は4・5人ずつに分けて受け入れるなど、利用者同士のかかわりを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のお店で買い物をするようにしています。また、区長さん、老人会会長さんに運営推進会議に参加して頂いており、町内の盆踊りに招待されたり、地域の行事について教えて頂き参加しています。	地域のつながりが強いだけに、新たな住民としての受け入れには至っていないが、近所の方々が毎日訪れるなど、徐々に馴染んできている。また、地域の行事にも招待されて少しずつ参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者がキャラバンメイトなので、サポーター養成の研修などの依頼があれば参加しています。ホームへ相談に来られた方には話しをしているが、地域の方に向けてはまだ行えていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所後3回しか会議を開催できていない為GHの様子を知って頂けるような内容で進めています。参加して頂いた方たちからは地域の様子を教えて頂いたり、アドバイスをいただいています。	日頃の状況を写真を用い説明している。地域の代表者からは、被災状況や地元の情報など説明して貰っている。家族からは、ツバメの巣からの糞害について意見があり、こまめに掃除するという対応をとったことがあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人として市との情報交換や何かあれば相談や報告などを行っています。また、キャラバンメイトとして定期的に会議に参加し市の職員の方と話をしています。	普段から行政と情報交換していることで、認知症対応について信頼を得ており、認知症介護の相談先として市民に紹介され、相談対応することが多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関その他夜間以外は施錠していません。身体拘束についての研修を行い、職員間で確認し合いながら支援しています。	職員全体に身体拘束しないという考えが浸透している。玄関は夜間以外は出入り自由で、非常口は、誰でも簡単に開けられる鍵で施錠され、実際に出られてしまう事もある。しかし、利用者の行動を制限せず、職員が後ろから付いて、危険がないよう見守りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修を行いました。利用者の尊厳を大切にすることで虐待することがないように、また、虐待が見過ごされることがないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて権利擁護について学ぶ機会を設けてはいるが十分理解されているとはいえません。本人の意思決定や意向、苦情の代弁、擁護に努めている。金銭管理については本人の意向、家族と相談しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、説明資料などを準備し、分からない事があれば説明を行い、理解、納得してもらった上で契約してもらえるように関わっています。見学等を積極的に受け入れ、改定等がある場合には説明を行うようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を発足したがまだ活動がない為、今後意見を頂ける機会となるように家族会を開催していきたいです。年に1回ご家族にアンケートを取り運営に反映させるようにしています。	行事等を通して相互理解に努め、意見要望を出しやすい関係ができています。アンケート結果・対応策を伝えている。玄関の格子戸から内部が見えるという意見があり、対策を検討中。年一回家族会の開催も予定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の中や定期的な会議、内部研修などの中で意見交換を行っています。これから個人面談を行う予定。また、親睦会など意見交換を行える機会を設けています。	年一回全職員と法人の理事長との面談があり、また管理者との面談もある。日頃から話しやすい雰囲気があり、職員の意見や提案にも耳を傾けている。記録が大変という意見に対し、PCシステムが導入されることになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リフレッシュ休暇を6日設けています。長期で休みをとる事ができるようにし、職員がリフレッシュでき、仕事に意欲を持って取り組めるように努めています。また、4月より就業規則が変更になり、職員が長く働くことが出来るように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、基礎研修や経験年数に合わせたレベルアップ研修を年数に応じた内容で行っています。また法人外では職員の経験や研修内容などに合わせて研修への参加を促しています。職員からの希望にも応じています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH連絡協議会の役員として県内のみならず、東北各県の事業所との交流があります。他事業所との交換研修を行ったり、今後は研修やボランティアも積極的に受け入れたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とお会いしたり、ご家族から話を伺い、不安や現在の生活での躓きなどを少しでも解消できるように現状把握に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には必ずご家族からの要望を聞き、記録に残し、職員全員が確認できるようにしています。面会時などに少しずつでも話してもらえようように関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け、必要なサービスを紹介しているが、グループホームは入居待ちの状況で、申込みを受け付ける際に状況を伝えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一緒に暮らしていく」と考え支援しています。出来るところは行ってもらい、利用者に教えてもらう事も多いです。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとっても、家族にとってもお互いが大切だと考えています。GHに入居して関係が切れてしまうのではなく、GH入居後も関係が続き絆が深まるように、常に電話などで状況を伝え、相談をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所がGHに入居したことにより途切れてしまわないようにと考えています。今まで通っていた美容室に出かけたりしています。お友達が会いに来て下さる方もいます。	本人が一番行きたい自宅は、家族の希望などによりなかなか行けていない。地元からの入居者が多い事もあり、家族や知人の面会が多い。繰り返し来てもらえるよう、顔を覚えたり、面会場所を提供する等配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室ではなく共有スペースの和室でお互い誘い合い皆さん一緒に過ごしています。その際は職員が加わったり、あえて加わらず利用者だけの時間を過ごして頂いています。今後支え合える関係ないないように支援していきたいと思っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した後にご家族に対して積極的な働きかけはしていません。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや言葉を書きとめるようにしています。そして実現可能な事は出来るだけすぐに実現させたいと思っています。また、本人は何をしたいのかとその方の立場で考えるようにしています。	日々の記録の中に本人の言葉・思いを書き留め、スタッフ間で共有している。利用者ごとの担当職員が、記録や日頃の様子から多角面に見ることで、本人の気持ちを推し量っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族に本人の生活史を書いていたいたり、本人の言葉や、担当ケアマネの方たちからこれまでの生活の様子を伺い、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の過ごし方を伺い、同じリズムで行っている事もあります。職員が全てを行ってしまうのではなく、出来るところは利用者の方に行ってもらえるように働きかけています。その日の体調を見ながら行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、リーダー、職員と話し合い、ケアプランを作成し、また、定期的に見直しをしています。プラン作成の際ご家族の要望を聞き、取入れようにはしていますが、まだまだご家族の要望を引き出し切れていません。	面会時やプラン更新時に声掛けし、家族と話し合う機会を設けている。本人を一番把握している担当職員を中心に話し合い、計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日誌へ記入し、職員で共有を図っています。介護計画見直しの際に振り返り、活かすようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ本人の希望を実現する為に、勤務を調整したり、職員が協力し合い、柔軟な対応、支援が出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの地域資源の把握までは至っていません。今までの関係が途切れないようには考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医の診療を受けており、受診は、ご家族の協力を得て行っています。夜間帯の緊急時にも指示、往診して頂ける体制があります。	家族に本人の病状を知ってもらうため、できるだけ同行して貰うようにしている。家族のみが同行する場合は、日頃の状況を伝えており、職員のみが同行する場合は受診結果を報告し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務しています。医療面での相談や情報交換を行い、利用者が適切な受診や、健康で過ごすことができるように協力し支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に行くようにし、病院での様子の把握に努め、退院後も支援が続けられるように努めています。病院関係者との関係作りまでには至っていません。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、重度化・終末期の説明、意向の確認を行います。今後もご家族からの質問などがあれば説明を随時行います。また、状況が変化した場合等にはその都度意向の確認を行い、共有を図っていきたく思います。	法人の既存のグループホームのノウハウがあり、入居時に説明することで、最期までいられるという安心感を持って貰っている。医療機関との連携も整っている。今後は職員に対し、重度者の対応や死生観などについて研修していく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行えていません。研修への参加や、勉強会の実施をしたいと考えています。急変時のマニュアル、連絡体制は作成されています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行つようになっています。消防署にも訓練に来ていただきました。今後も年に1回は消防署に来てもらいアドバイスを受けたと思います。また、訓練に地域のかたにも参加して頂けるように働きかけていきたいと思っています。	10月に実施して以降、寒さのため次回は4月の予定である。地域住民の参加はまだないが、今後働きかけていく予定である。法人のグループホーム合同で、別の場所ではあるが、夜間に避難訓練をしている。	災害は季節問わず起こり得るため、年間を通して定期的に訓練されるよう努めてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しく丁寧な声掛けを心掛けています。また、利用者一人ひとりに合わせ、分かりやすく、伝わりやすいような言葉を選んで対応しています。	排泄誘導は周囲に気づかれないよう、さりげなく行われている。トイレ介助時にはひざ掛けを使って隠し、居室でのパッド類の交換の際も、バスタオルで覆うなど配慮されている。入浴時には中から鍵を掛ける自由もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の思いを汲み取り、行動や様子を観察する事で、思いに添えるよう支援しています。また、自己決定できるように職員が働き掛けるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて生活を大切に支援しています。希望があれば、思いに添えるよう速やかに対応するように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好みの服を選んで頂いたり、自発的に化粧が出来るよう目の届く場所に化粧品を置くようにしています。また、汚れてしまった場合には、着替えを促し、清潔の保持に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ、献立を入居者と決めていきます。毎日ではありませんが天候を見て、入居者と一緒に買い物へ行き、食べたい物を購入するようにしています。また、食事の準備や片づけは、無理のないよう行ってもらっています。	利用者と相談しながら、献立を決めたりしている。体調や希望に合わせて、代替食の対応もしている。準備や片づけを手伝う利用者が生き生きと役割を果たしている。しかし一方では会話もなく黙々と食事する姿も見られた。	テーブルの配置の検討や、全体が和やかな雰囲気になるような工夫を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好み、食事形態を把握し、提供しています。好きな時に水分が摂れるようお茶を準備し、入居者が良く集まる場所に置いています。食事量・水分量が少ない方に関しては、別紙に摂取量を記入し、職員全体で把握をするように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助にて口腔ケアを行って頂いているが、毎食は行えていません。定期的な歯科往診によりアドバイスを受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時、訓練パンツの方がいましたが、排泄の失敗が無く、布パンツにての生活が可能と判断し、現在は、布パンツにて生活して頂いています。トイレの場所を分かりやすく表記したり、排泄パターンを把握し、声掛けを行っています。	紙パンツ使用者が数人ずついたが、トイレが近く、筋力が向上し、自信がついた事で布パンツになった。排泄チェック表でリズムをつかみ誘導したり、それぞれのサインを見つけ、その人のいつも行くトイレに案内している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動を心掛けています。また、食物繊維を多く含む食材やヨーグルトを摂取して頂き、自然に排泄できるよう取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	早い時間、遅い時間問わず、利用者の希望の時間に入浴して頂いています。入浴剤も数種類準備し、好きな物を選んで、気持ちよく入浴してもらえるように取り組んでいます。	約半数は毎日入浴している。入居前からの拒否者にも無理強いせず、家族から下着や湯上りのおやつを送って貰った事で、自発的に入浴できるようになった。また、職員の介助にこだわらず、家族の協力を得る事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の習慣に合わせて、好きな場所で休んで頂くように支援しています。居室の温度や湿度を調節したり、湯たんぽなどを使用して、気持ちよく休める空間を作るよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに個人の処方薬の説明書を綴じ、いつでも確認できるようにしています。しかし、薬に対する理解は、まだ不十分な所がある為、会議などを利用し、薬に関する知識の習得に努めていきたいと思えます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中に楽しみや役割を持って生活して頂けるよう取り組んでいます。まだまだ工夫が必要な状況です。行事の際には、普段の生活と一味違った雰囲気を感じてもらえるように力を入れて準備をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を聞き、秋に三春へ小旅行に出掛けたり、冬には家族を交えて、温泉での忘年会を行いました。また、普段から外出の希望を伺ったり、自由に外出できるよう支援しています。今後も利用者の声を大切に外出への支援をしていきたいと思えます。	行事としての外出は、利用者の意見を取り入れて、行き先・内容などを決めている。日常的な外出は近所の買い物や散歩が中心であるが、家族の支援でお見舞いや外食などに出かける方もいる。	職員・家族だけでなく地域やボランティアの協力も得るなどして、利用者の希望に沿った外出が、今まで以上に支援できることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は、管理して頂いています。お金を使いたいという希望がある場合は、なるべく本人も一緒に外出し、好きな物を購入して頂くよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話番号を紙に表記し、自分でダイヤルを押して、電話をしてもらっています。また、遠方に居る家族の方に本人が書いた近況の手紙と写真を添えて、やり取りをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を飾ったり、外の景色が見えるよう和室の障子を開けるようにしています。不快な刺激が無いよう配慮し、小まめに掃除を行い清潔を保つように心掛けています。	リビングは天井が高く光が差し込み、圧迫感が感じられない。和室のコタツでは寝ている方もあり、大半の利用者が共有の空間で思い思いに過ごしていた。両ユニットの間のウッドデッキは、お茶を飲むなどの自由な交流の場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチや和室で気の合った利用者同士が話をしたり、お茶を飲めるように配慮しています。一人で過ごしたいと思う入居者が居る場合には、自由にくつろいでもらえるよう、見守りにて対応しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきて頂き、今までの生活に近い環境で暮らして頂けるよう配慮しています。今後も家族の協力を得ながら、安心できる居室環境を整備していきたいと思っています。また、掃除をする際は、本人と一緒に行うように心掛けています。	馴染みの家具の持ち込みを勧めているが、収納が充実しており、持ち込みは少ない。しかし、広すぎず程良い空間である為か、殆どの利用者が落ち着いて過ごしている。利用者同士誘い合ってお茶飲みする事もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	似たような戸が多い為、それぞれの入り口に張り紙をしたり、必要な場所に手すりの取り付けなどを行っています。居室の電気やエアコンの使用方法が分からない場合には、分かりやすいよう説明し、リモコンに印を付けたリ、シールにて表記をするようにしてい		